第６章　地域別構想

１．地域区分の設定

地域別構想は、第５章で位置づけた都市整備方針を踏まえ、地域が抱えるまちづくりの課題に対応しながら、地域が有する個性を活かした地域づくりを推進していくための基本的な方向性を示すものです。

市全体の中での各地域の位置づけ及び一定のエリア的まとまりなどを考慮し、本計画においては、以下に示す４地域に区分します。

①　北部地域

市の北部に位置し、JR 野々市駅と北陸鉄道石川線押野駅が立地するほか、土地区画整理事業による市街地整備、国道８号沿道での商業地の形成など、利便性の高い地域です。本市の中心都市拠点の一つである JR 野々市駅周辺の発展とともに、つばきの郷公園などの立地も活かしつつ、さらに便利で快適な暮らしの充実を目指す地域として位置づけます。

②　東部地域

市の東部に位置し、旧北国街道（本町通り）には歴史的街並みなど昔ながらの面影が残るとともに、北陸鉄道石川線野々市駅及び野々市工大前駅が立地するなど、古くより本市の中心として発展してきた地域です。本市の中心都市拠点の一つとして、今後も歴史的街並みやフォルテ（文化会館）、カレード（市立図書館）、カミーノ（中央公民館）などの集積する公共施設や金沢工業大学と連携しながら、にぎわい創出を目指す地域として位置づけます。

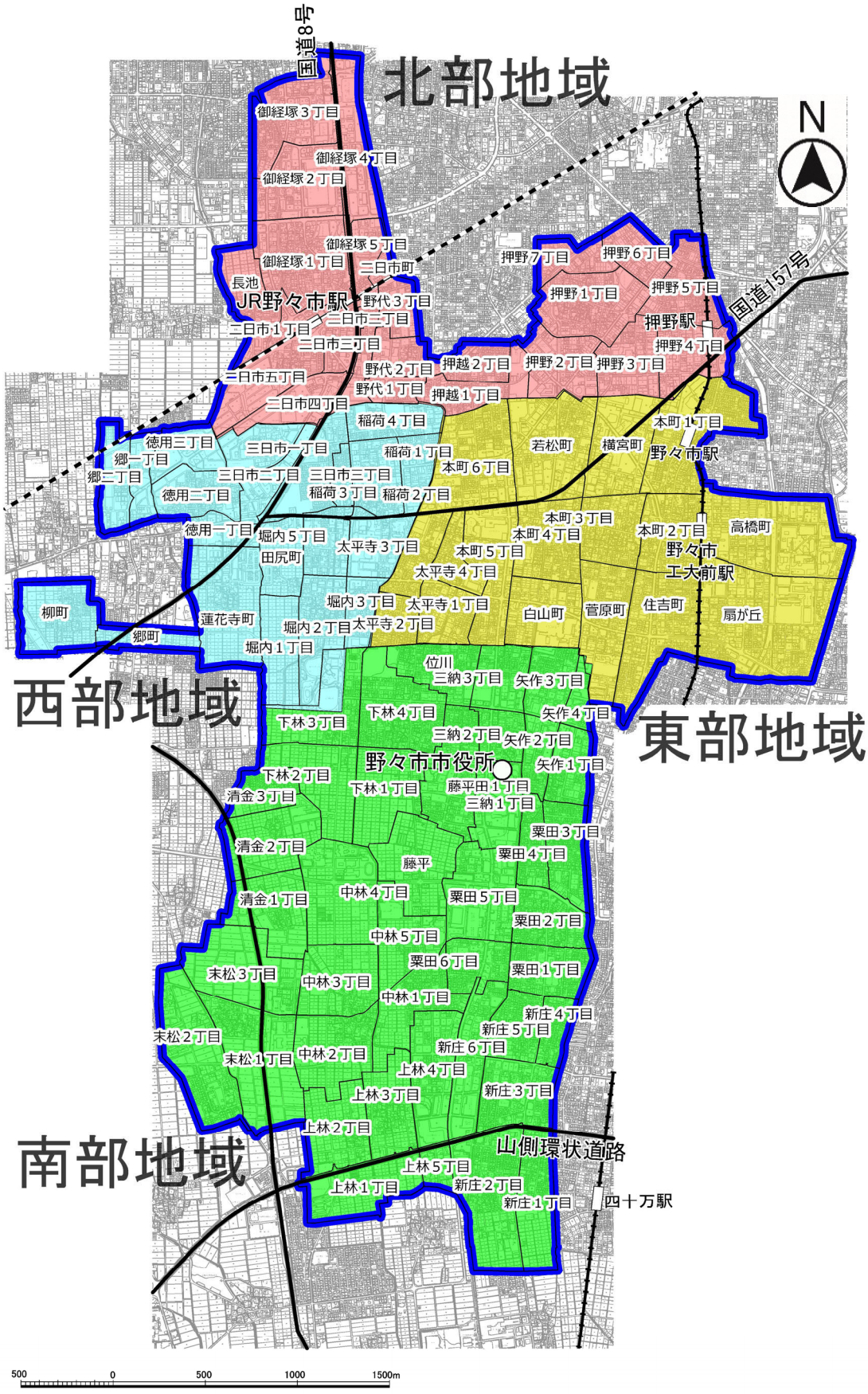
③　西部地域

市の西部に位置し、国道８号、国道 157 号が地域中心を通り、これまで複数の市街地整備が完了しており、現在も西部中央地区において土地区画整理事業が実施中であるなど、市街化の進展が顕著な地域です。健康レクリエーション拠点としての野々市中央公園や都市計画道路の整備により、健康で快適な暮らしの充実を目指す地域として位置づけます。

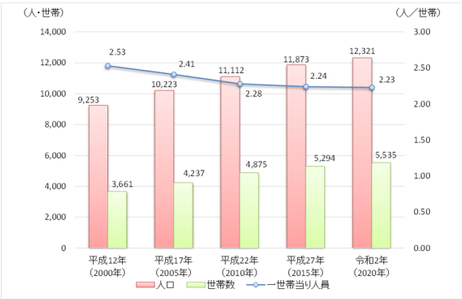
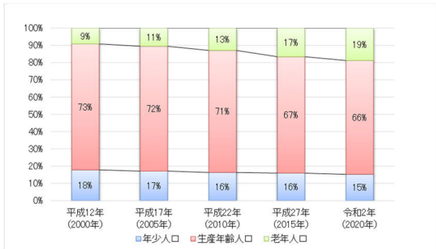
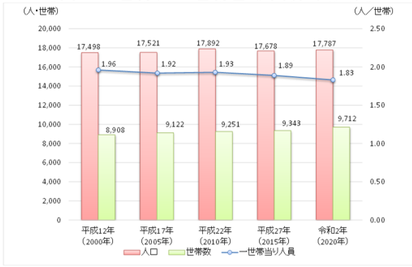
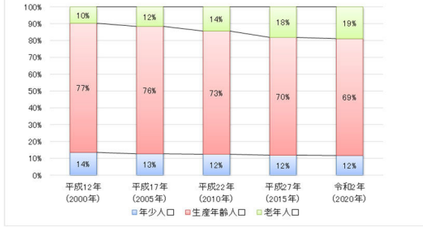
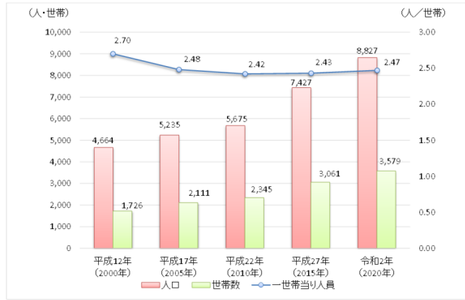
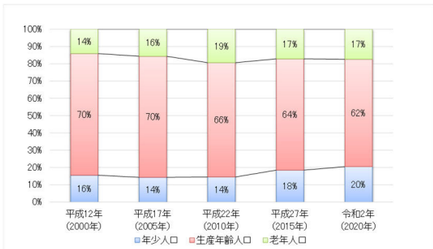
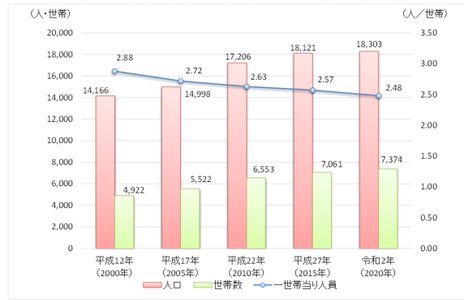
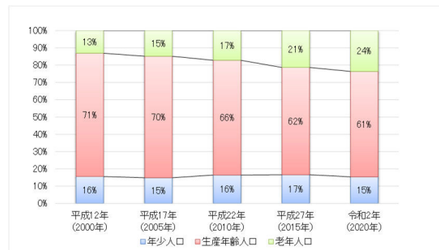
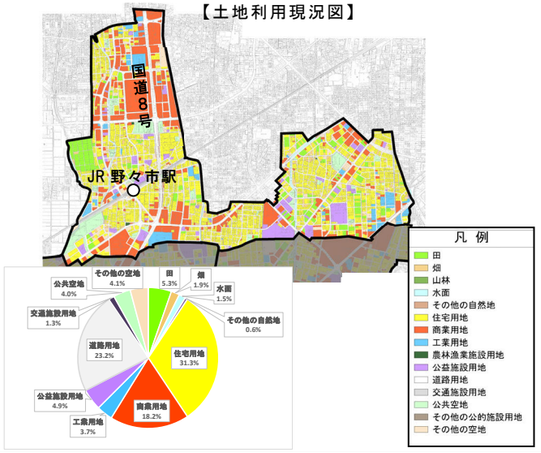
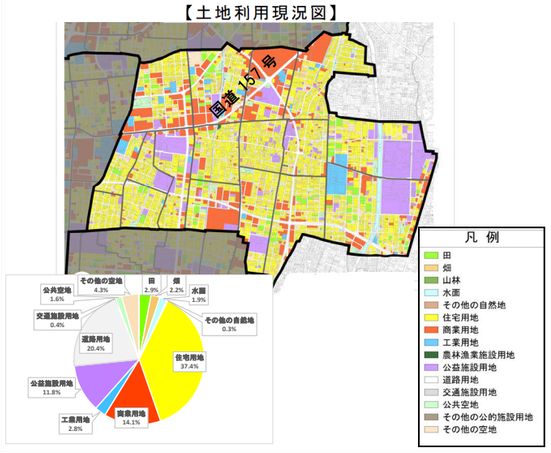
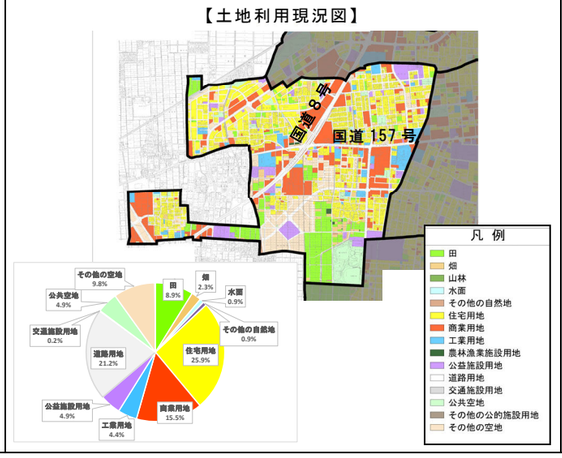
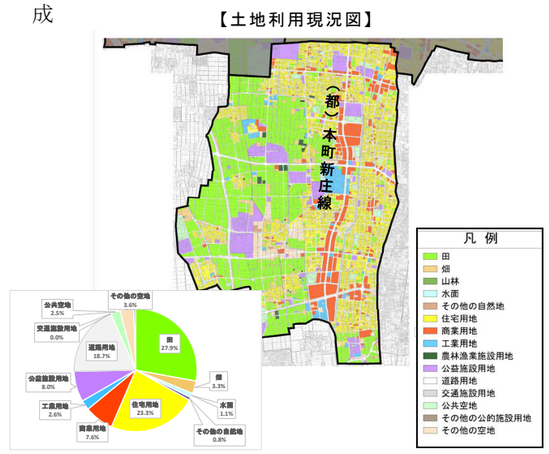
④　南部地域

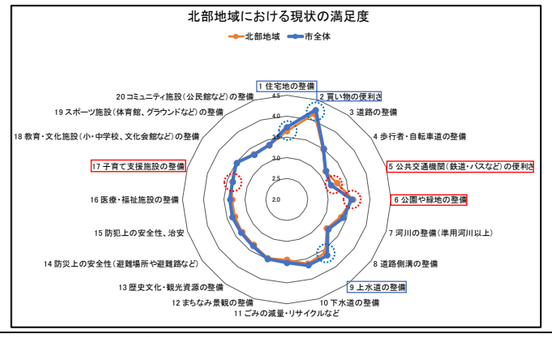
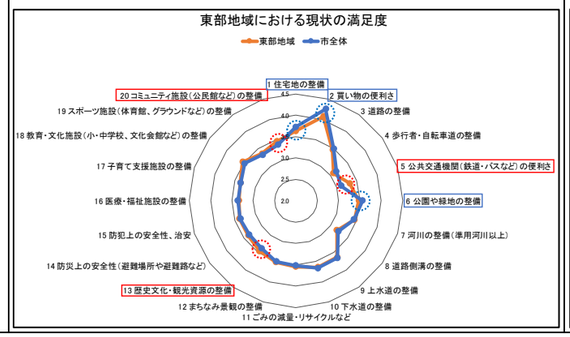
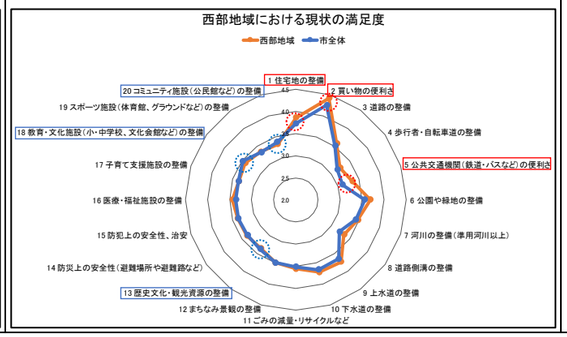
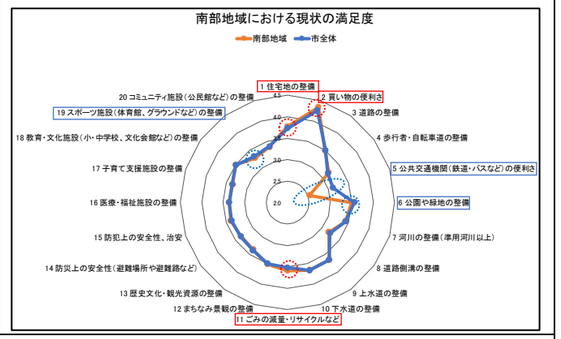
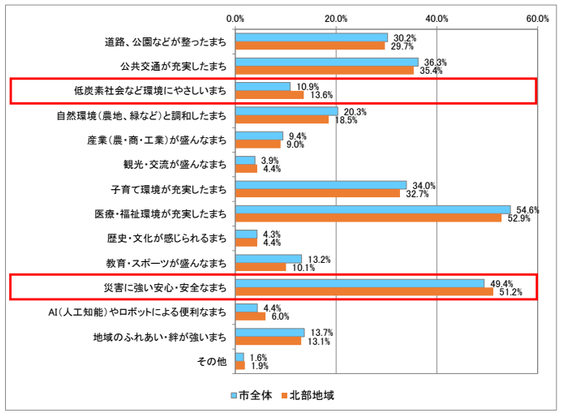
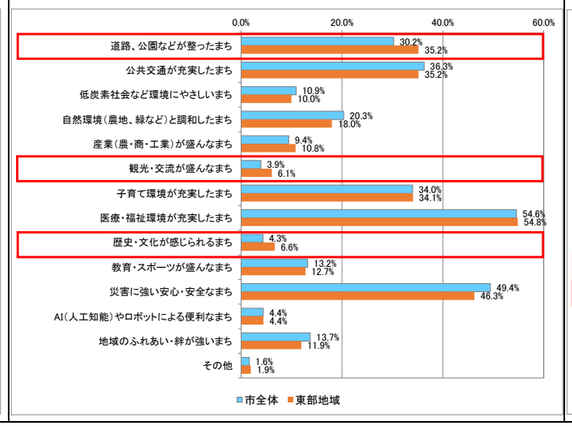
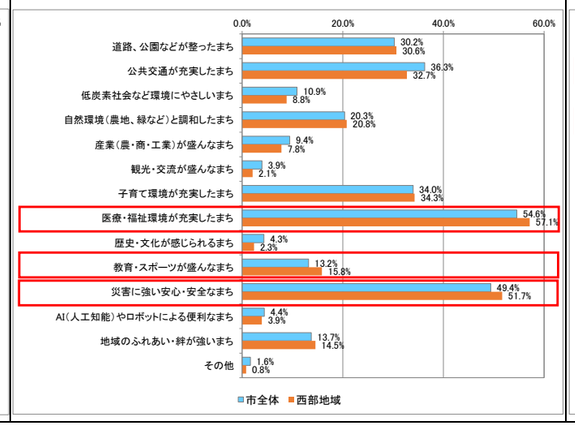
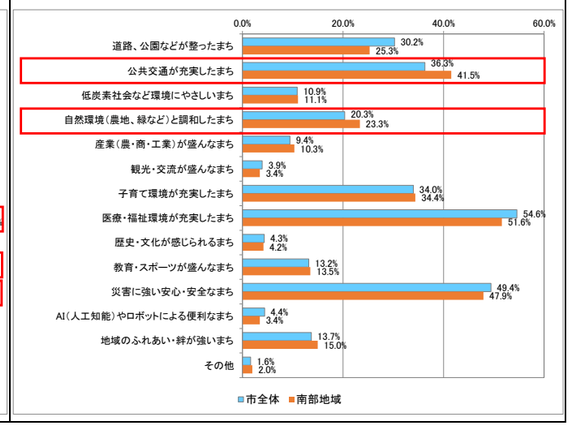
市域の南半分を占め、市街化区域と市街化調整区域が共存する地域です。市役所周辺における本市の中心都市拠点にふさわしい地域づくりの推進や、地域内に立地する石川県立大学や末松廃寺跡などの資源の活用を行います。これらを踏まえ、田園及びその周辺環境と都市が調和した、にぎわい創出と個性・魅力ある環境形成を目指す地域として位置づけます。

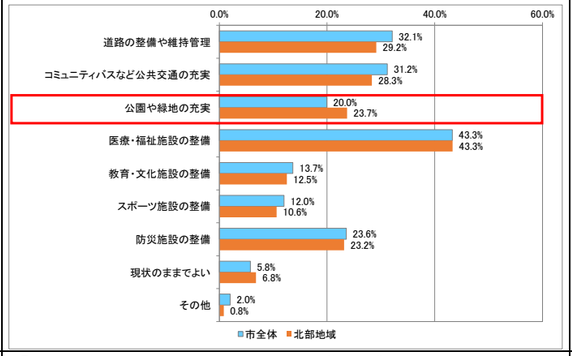
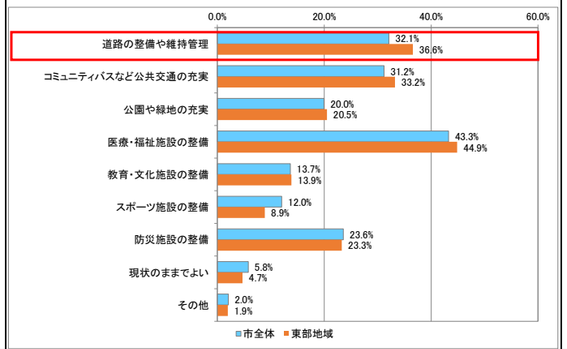
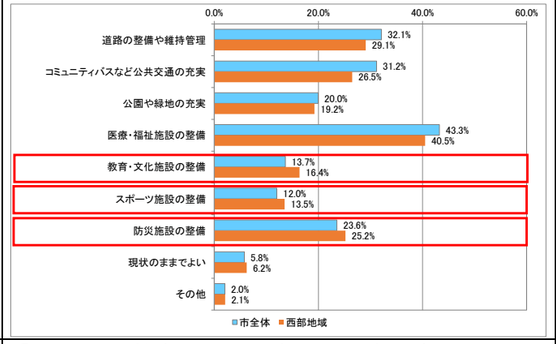
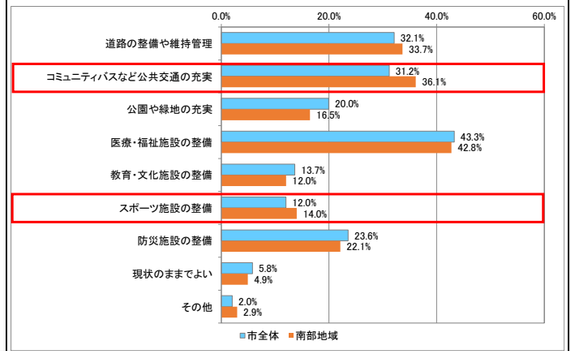
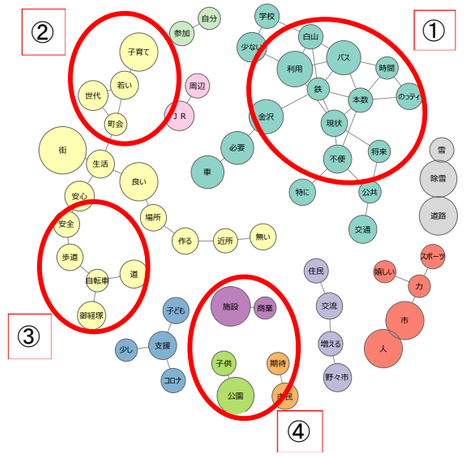
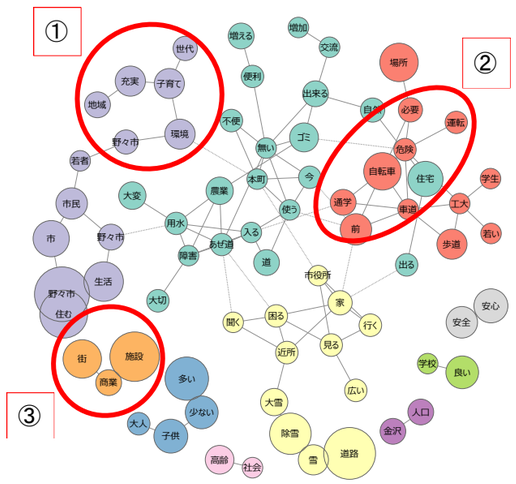
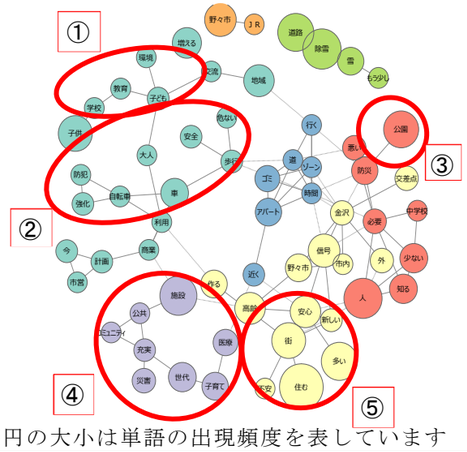
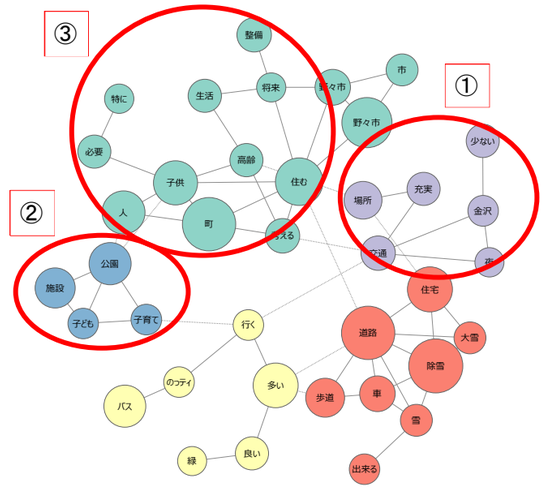
■地域区分図


北部地域
西部地域
東部地域
南部地域
国道8号
国道157号
N
JR野々市駅
押野駅
野々市駅
野々市工大前駅
野々市市役所
四十万駅
山側環状道路
御経塚３丁目
御経塚４丁目
御経塚２丁目
御経塚５丁目
御経塚１丁目
二日市町
長池
野代３丁目
二日市三丁目
二日市１丁目
二日市二丁目
二日市五丁目
野代２丁目
野代１丁目
二日市四丁目
押越２丁目
押越１丁目
押野７丁目
押野６丁目
押野１丁目
押野５丁目
押野４丁目
押野２丁目
押野３丁目
稲荷４丁目
稲荷１丁目
稲荷３丁目
稲荷２丁目
本町６丁目
若松町
横宮町
本町１丁目
本町３丁目
本町４丁目
本町２丁目
本町５丁目
高橋町
徳用三丁目
郷一丁目
郷二丁目
三日市一丁目
三日市二丁目
三日市三丁目
徳用二丁目
徳用一丁目
堀内５丁目
田尻町
太平寺３丁目
太平寺４丁目
柳町
郷町
蓮花寺町
堀内３丁目
堀内２丁目
堀内１丁目
太平寺１丁目
太平寺２丁目
白山町
菅原町
住吉町
扇が丘
位川
三納３丁目
矢作３丁目
下林４丁目
下林３丁目
矢作４丁目
三納２丁目
矢作２丁目
矢作１丁目
下林２丁目
下林１丁目
藤平田１丁目
三納１丁目
清金３丁目
粟田３丁目
清金２丁目
粟田４丁目
藤平
中林４丁目
粟田５丁目
清金１丁目
粟田２丁目
中林５丁目
粟田６丁目
粟田１丁目
末松３丁目
中林３丁目
中林１丁目
新庄４丁目
新庄５丁目
末松２丁目
新庄６丁目
末松１丁目
中林２丁目
上林４丁目
新庄３丁目
上林３丁目
上林２丁目
上林５丁目
上林１丁目
新庄２丁目
新庄１丁目
500
0
500
1000
1500m

２．地域の概況

項　目	北部地域	東部地域	西部地域	南部地域
２－１．人口・世帯	○人口及び世帯数は増加傾向、一世帯当り人員は減少傾向 ○老年人口割合は増加傾向、年少人口割合は概ね横ばい、生産年齢人口割合は減少傾向 ○４地域の中で一世帯当り人員や年齢３区分別の人口割合は、市全体と最も近い 【人口、世帯、一世帯当り人員の推移】  【年齢３区分別人口割合の推移】 	○人口は概ね横ばい、世帯数は増加傾向、一世帯当り人員は減少傾向 ○老年人口割合は増加傾向、年少人口及び生産年齢人口割合は減少傾向 ○４地域の中で唯一人口が横ばいで推移している ○一世帯当たり人員が少ないのは学生の街の象徴 ○４地域の中で最も年少人口割合が少ない 【人口、世帯、一世帯当り人員の推移】  【年齢３区分別人口割合の推移】 	○人口及び世帯数は増加傾向、一世帯当り人員は減少傾向 ○老年人口割合は H12～H22 にかけて増加傾向、年少人口割合は H22～R2 にかけて６％増加 ○４地域の中で最も人口が増加している ○４地域の中で最も年少人口割合が多い 【人口、世帯、一世帯当り人員の推移】  【年齢３区分別人口割合の推移】 	○人口及び世帯数は増加傾向、一世帯当り人員は減少傾向 ○老年人口割合は増加傾向、年少人口割合は概ね横ばい、生産年齢人口割合は減少傾向 ○４地域の中で最も一世帯当たり人員が多い ○４地域の中で最も老年人口割合が多い 【人口、世帯、一世帯当り人員の推移】  【年齢３区分別人口割合の推移】 
２－２．土地利用	○住宅用地の割合が約３割で最も高い ○国道８号沿線に商業地や工業地が形成 【土地利用現況図】  	○住宅用地の割合が約４割で最も高い ○国道 157 号沿線に商業地や工業地が形成 【土地利用現況図】  	○住宅用地の割合が約３割で最も高い ○国道８号、157 号沿線に商業地や工業地が形成 【土地利用現況図】  	○田の割合が約３割で最も高い ○　(都)本町新庄線（中央通り）沿線に商業地が形成 【土地利用現況図】 

項　目	北部地域	東部地域	西部地域	南部地域
２－３． アンケート （1）現状における満足度	【全地域共通】 ○「買い物の便利さ」が最も高く、「住宅地の整備」も比較的高い ○「公共交通機関の便利さ」や「歩行者・自転車道の整備」が他の項目と比べて低い			
	【市全体との比較】 ※高い（上位）、低い（下位）それぞれ３項目 ＜高い＞ ・「公共交通機関の便利さ」 ・「公園や緑地の整備」 ・「子育て支援施設の整備」 ＜低い＞ ・「住宅地の整備」 ・「買い物の便利さ」 ・「上水道の整備」  	【市全体との比較】 ※高い（上位）、低い（下位）それぞれ３項目 ＜高い＞ ・「公共交通機関の便利さ」 ・「コミュニティ施設の整備」 ・「歴史文化・観光資源の整備」 ＜低い＞ ・「買い物の便利さ」 ・「住宅地の整備」 ・「公園や緑地の整備」  	【市全体との比較】 ※高い（上位）、低い（下位）それぞれ３項目 ＜高い＞ ・「公共交通機関の便利さ」 ・「買い物の便利さ」 ・「住宅地の整備」 ＜低い＞ ・「教育文化施設の整備」 ・「コミュニティ施設の整備」 ・「歴史文化・観光資源の整備」  	【市全体との比較】 ※高い（上位）、低い（下位）それぞれ３項目 ＜高い＞ ・「買い物の便利さ」 ・「ごみの減量・リサイクルなど」 ・「住宅地の整備」 ＜低い＞ ・「公共交通機関の便利さ」 ・「公園や緑地の整備」 ・「スポーツ施設の整備」 
（２）将来どのようなまちになってほしいか	【全地域共通】 ○「医療・福祉環境が充実したまち」が最も高い ○「災害」、「子育て環境」、「公共交通」に関する項目も３割以上と高い			
	【市全体との比較】 「環境にやさしいまち」 「災害に強い安心・安全なまち」を望む人が多い  	【市全体との比較】 「道路、公園などが整ったまち」、 「観光・交流が盛んなまち」、 「歴史・文化が感じられるまち」を望む人が多い  	【市全体との比較】 「医療・福祉環境が充実したまち」 「教育・スポーツが盛んなまち」 「災害に強い安心・安全なまち」を望む人が多い  	【市全体との比較】 「公共交通が充実したまち」 「自然環境（農地、緑など）と調和したまち」 を望む人が多い 

項　目	北部地域	東部地域	西部地域	南部地域
（３）都市施設の整備について	【全地域共通】 ○「医療・福祉施設の整備」が最も高い ○「道路の整備や維持管理」、「公共交通の充実」も高い			
	【市全体との比較】 「公園や緑地の充実」を望んでいる  	【市全体との比較】 「道路の整備や維持管理」を望んでいる  	【市全体との比較】 「教育・文化施設の整備」 「スポーツ施設の整備」 「防災施設の整備」を望んでいる  	【市全体との比較】 「公共交通の充実」 「スポーツ施設の整備」を望んでいる 
（４）自由回答の分析による市民意向	①バスなどの交通に関して不満を感じている ②子育てに関する意見がある ③道路や歩道、自転車に関する意見がある ④公園や商業施設に関する意見がある  ※円の大小は単語の出現頻度を表しています	①子育て環境の充実を求めている ②自転車通学などの安全性の向上を求めている ③商業施設に関する意見がある  ※円の大小は単語の出現頻度を表しています	①子どもの教育に関する意見が一定程度ある ②自転車の防犯や歩行の安全に関する意見がある ③公園に関する意見がある ④子育て・医療の充実や公共施設に関する意見がある ⑤安心な街づくりを求めている  ※円の大小は単語の出現頻度を表しています	①交通の充実に関する意見がある ②子育てや公園、施設に関する意見がある ③子どもや高齢者に関連する意見がある  ※円の大小は単語の出現頻度を表しています
２－４．都市基盤の整備状況	○都市計画道路は整備済み ○JR 野々市駅が立地している ○上水道は、北部配水区、東部配水区、南部配水区の３区に含まれており、地域全体に配水されている	○都市計画道路は整備済み ○北陸鉄道石川線が縦断しており、「野々市駅」、「野々市工大前駅」が立地している ○東部浄水場が立地しており、東部配水区として地域全体に配水されている	○（都）高尾郷線、（都）野々市中央公園西線が整備中となっている ○西部中央地区土地区画整理事業が実施中となっている ○上水道は、東部配水区と南部配水区の２区に含まれており、地域全体に配水されている	○（都）堀内上林線、（都）三納下林線が一部区間で未整備となっている ○中林地区土地区画整理事業が実施中となっている ○南部・北部浄化場が立地しており、南部配水区として地域全体に配水されている

３．地域別まちづくり方針

３－１　北部地域

（１）　まちづくりの課題

：アンケート調査より地域住民の声を反映した課題を示しています。

①　JR 野々市駅周辺の利便性向上、魅力向上

- 鉄道駅周辺という特性を十分に活かし、都市機能が集積する利便性の高い拠点地区として計画的な土地利用の誘導を図っていく必要があります。
- 通勤・通学など多くの人々が行き交う場として商業機能の充実や、駅からの公共交通による移動環境の充実など、駅前のにぎわい創出と交通結節点としての利便性を向上していく必要があります。
- 駅北口に隣接して立地する交遊舎について、地域の交流・活動や市内企業の活動振興などの場としての活用方法の検討及び北口プラザの活用方法の検討を行います。

②　公園立地を活かした地域づくり

- 御経塚遺跡が立地する特徴を最大限活かし、広く学習の場として活用していくだけではなく、地域住民の憩いの場として活用していくことが期待されます。
- つばきの郷公園、押野中央公園については、地域の拠点として位置づけられている公園としての機能維持をはじめ、地域住民の交流の場などとして活用していく必要があります。

③　快適に安心して暮らせる生活環境の確保

- 国道８号など幹線道路沿道における適正な土地利用を誘導していく必要があります。
- 住宅地内においては、生活に密着した買い物やサービスが受けることができる生活利便施設が不足している地域も見られます。
- 地域に大きく広がる住居地において、良好な街並み形成、防災対策の強化、公共交通網の充実など、より安全で快適な住環境を確保していく必要があります。

（２）地域の将来像

■地域特性

・県内外からの鉄道利用者の玄関口としての役割を担う地域
・商業・業務施設の立地が目立つ国道８号沿道
・つばきの郷公園や押野中央公園、御経塚史跡公園といった緑や歴史の拠点となる公園が立地
・人口は増加傾向であるが、年少人口割合が減少

■地域づくりの方向性

・本市の玄関口にふさわしい JR 野々市駅周辺の地域づくりの推進
・幹線道路沿道の適正な土地利用誘導
・拠点となる公園の地域づくりへの活用
・暮らしの場としての快適で安全な生活環境の確保

【まちづくりのテーマ】

JR 野々市駅を中心としたにぎわいのある地域づくり

●JR 野々市駅周辺における公共交通の利便性を活かしたにぎわい創出を目指すとともに、幹線道路沿道を中心とした活力を維持しながらも、幹線道路周辺の住宅地においては、いつまでも安全安心に暮らし続けられる生活の場として、さらに住みよい快適な住環境の確保を図っていく地域づくりを目指すものとします。

【まちづくりの基本目標】

- 基本目標１　JR 野々市駅周辺における都市拠点の形成
- 基本目標２　公園の有効活用による地域の魅力向上、交流の場としての有効活用
- 基本目標３　快適で暮らしやすい生活環境の確保

全体構想部門	土地利用	市街地整備	交通体系	公園・緑地	河川・上下水道	良好な都市環境形成	都市景観形成	安全・安心	情報技術
基本目標1	○	－	○	－	－	○	－	－	－
基本目標2	－	○	－	○	－	○	○	－	－
基本目標3	○	○	○	－	○	－	－	○	－

※基本目標が関連する全体構想における主な部門を○印で示しています。

（３）まちづくりの基本方針

基本目標１：JR 野々市駅周辺における都市拠点の形成

- JR 野々市駅周辺において行政施設や商業施設の集約的配置により、駅前のにぎわい創出を図ります。
- 交遊舎の地域の交流・活動の場としての活用方法の検討及び北口プラザの活用方法の検討を進めながら、駅前の交流拠点の形成を図ります。
- 公共交通の利便性向上などにより、JR 野々市駅での各種交通機関の連絡強化を図ります。

【都市拠点の形成】

▲JR 野々市駅

▲交遊舎の活用方法検討

基本目標２：公園の有効活用による地域の魅力向上、交流の場としての有効活用

- 御経塚史跡公園の再整備により、貴重な歴史に触れあえる学習の場として活用を図ります。
- つばきの郷公園及び押野中央公園の機能維持により、地域の憩い・交流促進の場としてさらなる活用を図ります。

【地域内都市公園の有効活用】

▲御経塚史跡公園の再整備

▲公園機能の維持

基本目標３：快適で暮らしやすい生活環境の確保

- 長池地区については、土地区画整理事業による計画的な市街地整備を推進します。
- （都）泉野々市線の整備を促進し、円滑な道路網の構築を推進します。
- 馬場川放水路の整備促進による浸水対策の強化や、押野雨水二号幹線の整備などにより災害に強い地域づくりを推進します。
- コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんキー」、北鉄バス、JR 北陸本線などの公共交通との連携やパークアンドライドの推進により、公共交通による利便性が高く快適に暮らせる地域づくりを目指します。
- 国道８号沿道については、周辺の住環境に配慮した沿道商業地の形成を促進し、地域の活性化と生活利便性の向上を図ります。

【暮らしやすい生活環境の確保】

▲コミュニティバス「のっティ」
シャトルバス「のんキー」

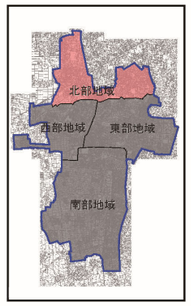
▲国道８号沿道の土地利用誘導
（御経塚北交差点付近）

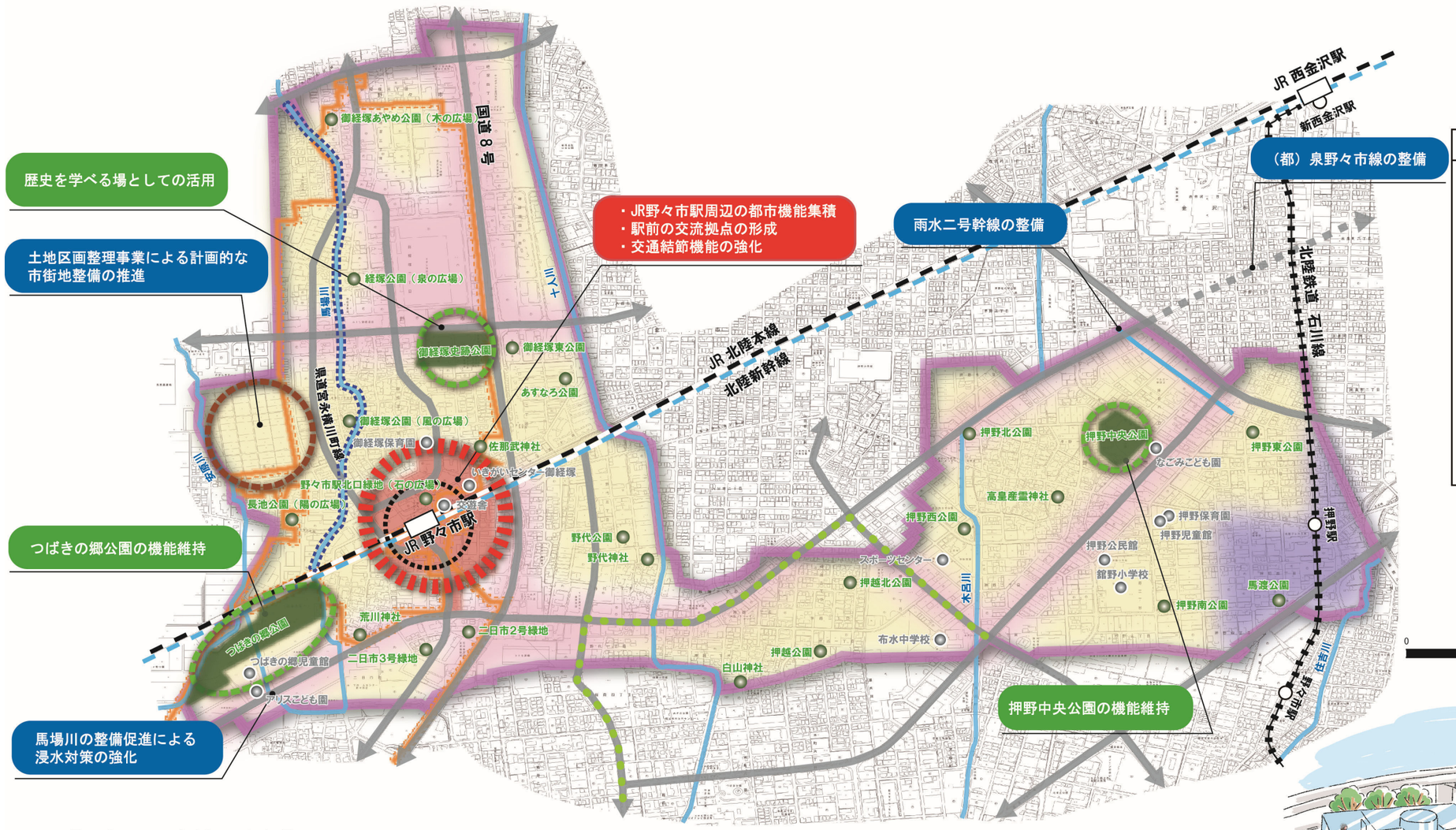
地域別将来整備方針図

北部地域

ＪＲ野々市駅を中心としたにぎわいのある地域づくり

- JR野々市駅周辺における都市拠点の形成
- 公園の有効活用による地域の魅力向上、交流の場としての有効活用
- 快適で暮らしやすい生活環境の確保





【北部地域全体の方針】

○ 公共交通網の充実
⇒コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんきー」、北鉄バスとの連携やパークアンドライドの推進を図る

○ 商業業務地区における沿道商業地の形成
⇒周辺の住環境に配慮した沿道商業地の形成と沿道の賑わい創出を図る

３－２　東部地域

（１）まちづくりの課題

：アンケート調査より地域住民の声を反映した課題を示しています。

①　まちなかのにぎわいを維持、強化

- 他の地域と比較すると人口が横ばいであり、人口減少や空き家数の増加が懸念されることから、東部地域の居住数を増加させる必要があります。
- 地域内に多く立地する文化・学習・交流の拠点施設について、地域の活性化に向けて積極的に活用・連携していく必要があります。
- 金沢工業大学の立地を活かし、若い世代の知恵や力を地域づくりに活用していく必要があります。

②　歴史・文化的資源の活用による地域の個性・魅力向上

- 本市の中心都市拠点の中にあって歴史的街並み形成地区として位置づけられる旧北国街道（本町通り）周辺は、地域の財産として歴史的建築物や街並みなどを大切に守りながら積極的に地域づくりに活かしていく必要があります。

③　多様な世代が安心・快適に暮らせる環境の確保

- 大学を有する本地域には、比較的若い世代の居住者も多く、子育て環境の充実を含め、若い世代から高齢者まで多様な世代が住みやすい生活環境を確保する必要があります。
- 本市の中でも広く商業地域に指定されているにもかかわらず、日常的に利用できる店舗など生活利便施設の立地が少ないなど、居住地としての利便性を向上していく必要があります。
- 本地域では、昔からの街並みが残っており、空き家や空き地の有効活用、除雪対策の強化、狭隘道路の解消などによる住環境を向上していく必要があります。
- 国道 157 号や（都）高尾郷線などの幹線道路沿道や周辺の住宅地においては、沿道の活性化と生活利便性の向上を図るため、適正に土地利用を誘導していく必要があります。

（２）地域の将来像

■地域特性

・古くより本市の中心市街地として発展
・文化・交流・教育施設が集積立地
・金沢工業大学が立地し、学生が多く在住
・国道などの沿道周辺がにぎわう反面、まちなかの活力低下が懸念
・人口は概ね横ばい、一世帯あたり人員が少ない

■地域づくりの方向性

・中心市街地としての地域の活力再生
・歴史・文化資源などを活かした地域の魅力向上
・中心都市拠点、歴史街並み形成地区にふさわしい地域づくりの推進
・学術拠点である金沢工業大学との連携
・多様な世代が暮らしやすい環境づくり

【まちづくりのテーマ】

歴史・文化と交流の場を活かした魅力ある地域づくり

●本市の貴重な歴史的な資源である旧北国街道（本町通り）をはじめ、集積する文化・交流・教育施設を活かした活力と魅力ある地域づくりとともに、若者から高齢者まで多様な人々が快適に暮らせる環境の確保を目指すものとします。

【まちづくりの基本目標】

- 基本目標１　歴史・文化を活かした個性とにぎわいの創出
- 基本目標２　多様な出会い・交流の場の創出と活用
- 基本目標３　大学と連携した地域づくりの推進
- 基本目標４　快適で暮らしやすいまちなか環境の形成

全体構想部門	土地利用	市街地整備	交通体系	公園・緑地	河川・上下水道	良好な都市環境形成	都市景観形成	安全・安心	情報技術
基本目標1	○	○	○	－	－	○	○	○	－
基本目標2	○	○	－	○	－	－	－	－	－
基本目標3	○	－	－	－	－	－	○	－	○
基本目標4	○	○	○	－	－	○	－	○	－

※基本目標が関連する全体構想における主な部門を○印で示しています。

（３）まちづくりの基本方針

基本目標１：歴史・文化を活かした個性とにぎわいの創出

- 中心都市拠点として位置づけられる本町地区周辺においては、教育・文化施設などの行政施設や商業施設などの集約的配置を図り、にぎわい創出を図ります。
- 喜多家住宅及び郷土資料館など、旧北国街道（本町通り）沿道における歴史的建築物の保存・活用を図ります。
- 旧北国街道（本町通り）沿道において、建築物の修景や古民家や空き家の活用などを促進し、歴史的街並み景観の保全を図ります。
- 旧北国街道（本町通り）沿道においては、安全で快適な歩行者空間の確保により、歩けるまちづくりを進めていきます。

【歴史的建築物の保存・活用】

▲喜多家住宅

▲郷土資料館

基本目標２：多様な出会い・交流の場の創出と活用

- 旧北国街道（本町通り）周辺に立地するフォルテ（文化会館）、カレード（市立図書館）、カミーノ（中央公民館）といった主要な公共施設と連携した各種イベント開催などによる出会い・交流を促進し、一体的な地域活性化を目指します。

基本目標３：大学と連携した地域づくりの推進

- 金沢工業大学周辺において、にぎわいのある沿道商業地の形成を図るなど、学術拠点としてふさわしい地区の魅力向上を目指します。
- 金沢工業大学の立地を活かし、フィールドワークの場としての活用や、地域づくりへの ICT、IoT の活用検討など、大学と連携した先駆的な地域づくりを目指します。

【拠点となる公共施設や金沢工業大学の立地を活かした地域づくり】

▲にぎわいの里 ののいちカミーノ

▲金沢工業大学

基本目標４：快適で暮らしやすいまちなか環境の形成

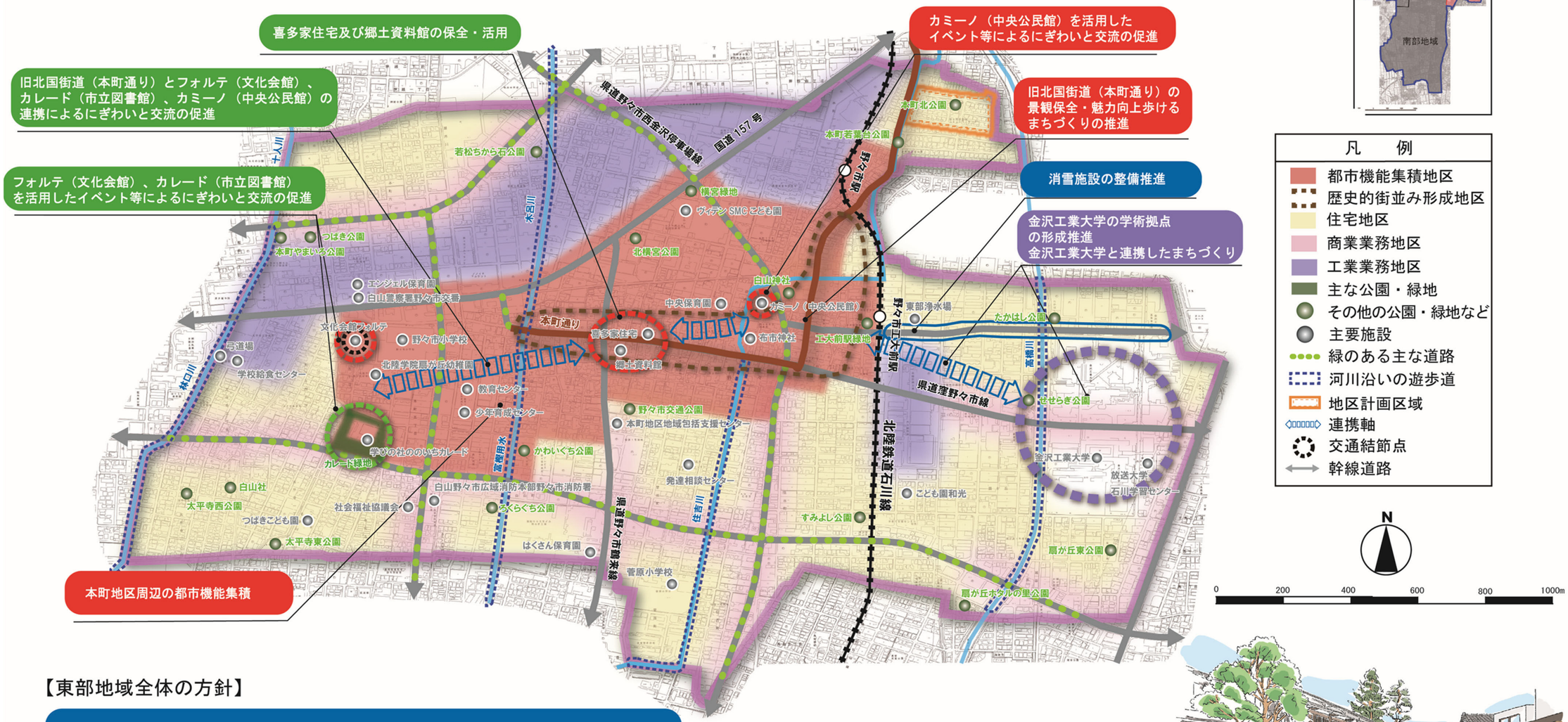
- コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんキー」、北鉄バス、北陸鉄道石川線との連携やパークアンドライドの推進により、公共交通を利用した快適に暮らせる地域づくりを目指します。
- 空き家の活用を促進し、まちなか居住の推進を図ります。
- 北陸鉄道石川線・野々市工大前駅と金沢工業大学を結ぶ路線について、消雪施設の整備による安全安心な交通網を確保します。
- 本町地区に多い狭隘道路においては、建築物の建て替え時などに併せて解消に努めます。

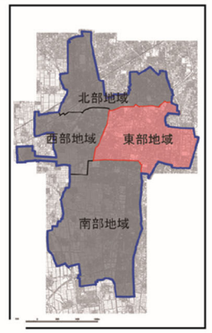
地域別将来整備方針図

東部地域

歴史・文化と交流の場を活かした魅力ある地域づくり

- 歴史・文化を活かした個性とにぎわいの創出
- 多様な出会い・交流の場の創出と活用
- 大学と連携した地域づくりの推進
- 快適で暮らしやすいまちなか環境の形成





【東部地域全体の方針】

○ 狭隘道路の解消による災害に強い地域づくりの推進
⇒古くからある集落周辺に狭い道路が多いため、建築物の建て替え等適切な時期に解消を推進する

○ 公共交通網の充実による快適に暮らせる地域づくりの推進
⇒コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんきー」、北鉄バスとの連携やパークアンドライドの推進を図る

○ 空き家、低未利用地の適正管理及び有効活用による快適で暮らしやすいまちなか居住の推進
⇒市域の中でも東部地域は空き家が多いため、適切な管理及び有効活用を促進する

３－３　西部地域

（１）　まちづくりの課題

：アンケート調査より地域住民の声を反映した課題を示しています。

①　市街化の進展への対応

- 土地区画整理事業の実施による市街化が進展している地域であり、地域の特性に応じながら、都市基盤の整備をはじめ、子育てや教育環境及び医療環境の充実など、快適に暮らせる市街地の整備を計画的に推進していく必要があります。
- 地域内を走る国道８号及び 157 号、外環状道路（海側幹線）沿道を中心として、商業業務施設が複数立地しており、今後も隣接する住宅地などの居住環境の保全を図りながら、適正な土地利用の誘導を図っていく必要があります。
- 郷二丁目地区及び郷町地区においては、周辺土地利用状況と一体となった土地利用を推進していく必要があります。

②　野々市中央公園の機能強化

- 市内において大規模なスポーツの大会などが開催可能な屋内施設がないことから、大会やイベントに活用可能な機能を検討する必要があります。
- 多様な生物が生息する自然環境の保全や市民の憩いとにぎわいの交流空間の創出を図る必要があります。
- 野々市中央公園は防災拠点として位置づけられていることから、防災機能の強化が求められています。

③　安心して暮らせる生活環境の確保

- 野々市中央公園周辺の病院などの立地を活かしながら、いつまでも健康で安心して暮らせる地域づくりを進めていく必要があります。
- (都)高尾郷線道路や(都)野々市中央公園西線の道路整備や計画的な沿道利用の促進などにより、快適に安心して暮らせる居住環境を維持・確保していく必要があります。

（２）地域の将来像

■地域特性

・国道８号、157 号が通過する広域交通の要所
・幹線道路沿道では比較的規模の大きな商業地や工業地が形成
・野々市中央公園との近接性を活かした新たな市街地が整備中
・人口増加の傾向が顕著で、年少人口割合も増加
・スポーツ・レクリエーション拠点である野々市中央公園が立地

■地域づくりの方向性

・土地区画整理事業と一体的な都市基盤の整備推進
・幹線道路沿道などにおける適正な土地利用の誘導
・新たな市街地にふさわしい生活利便性の向上
・野々市中央公園の機能強化などによる地域の魅力向上
・多様な世代が安全に健康に暮らし続けられる地域づくりの推進

【まちづくりのテーマ】

野々市中央公園を核とした健やかで快適に暮らせる地域づくり

●多様な機能が共存しながら、適正な土地利用の誘導や計画的な市街地整備などを一体的に進め、より健やかで快適に暮らせる生活利便性の高い地域づくりを目指すものとします。

【まちづくりの基本目標】

- 基本目標１　野々市中央公園における健康・交流・防災拠点の形成
- 基本目標２　野々市中央公園周辺における快適で安全な居住環境の確保
- 基本目標３　快適で暮らしやすい生活環境の確保

※基本目標が関連する全体構想における主な部門を○印で示しています。

全体構想部門	土地利用	市街地整備	交通体系	公園・緑地	河川・上下水道	良好な都市環境形成	都市景観形成	安全・安心	情報技術
基本目標1	－	○	－	○	－	○	○	○	－
基本目標2	○	○	－	○	－	－	－	－	－
基本目標3	○	○	○	－	－	－	－	－	－

（３）まちづくりの基本方針

基本目標１：野々市中央公園における健康・交流・防災拠点の形成

- 施設のバリアフリーやユニバーサルデザインの検討を行うとともに、施設の有効活用に向け、近隣の病院や福祉施設との連携について検討を行います。
- 地域住民の交流の場としての利活用のみでなく、多様な市民の憩いの場、スポーツ・レクリエーションの場として利用できるような施設の検討を行います。
- 防災拠点として機能するよう、災害時の避難場所や備蓄倉庫、仮設住宅の建設予定地などの防災機能の強化について検討を行います。

【拠点の形成】

▲野々市中央公園の拡張整備

▲ののいち椿館

基本目標２：野々市中央公園周辺における快適で安全な居住環境の確保

- 西部中央土地区画整理事業の推進により、計画的な市街地形成を図ります。
- 地区計画などによる快適で良好な住宅地の維持・形成を図ります。

【快適で安全な居住環境の確保】

▲地区計画などによる街並み例

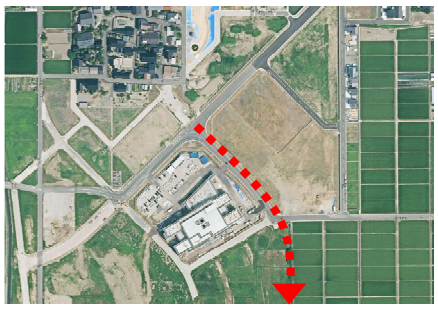
▲施行区域内に立地する南ヶ丘病院

基本目標３：快適で暮らしやすい生活環境の確保

- 郷二丁目地区及び郷町地区においては周辺土地利用状況と一体となった市街地の整備を推進します。
- 外環状道路（海側幹線）の整備促進及び（都）野々市中央公園西線及び（都）高尾郷線の整備推進により、円滑な道路網の構築を図ります。
- 国道８号、157 号沿道に相応しい商業・業務系土地利用の誘導により、生活利便性の向上を図ります。

【幹線道路沿道の土地利用誘導と交通体系の整備推進】

▲国道 157 号沿道土地利用の誘導



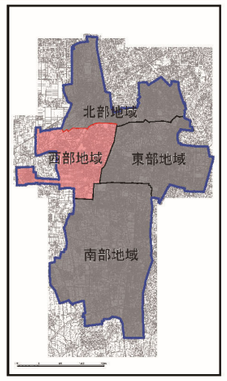
▲（都）野々市中央公園西線の整備

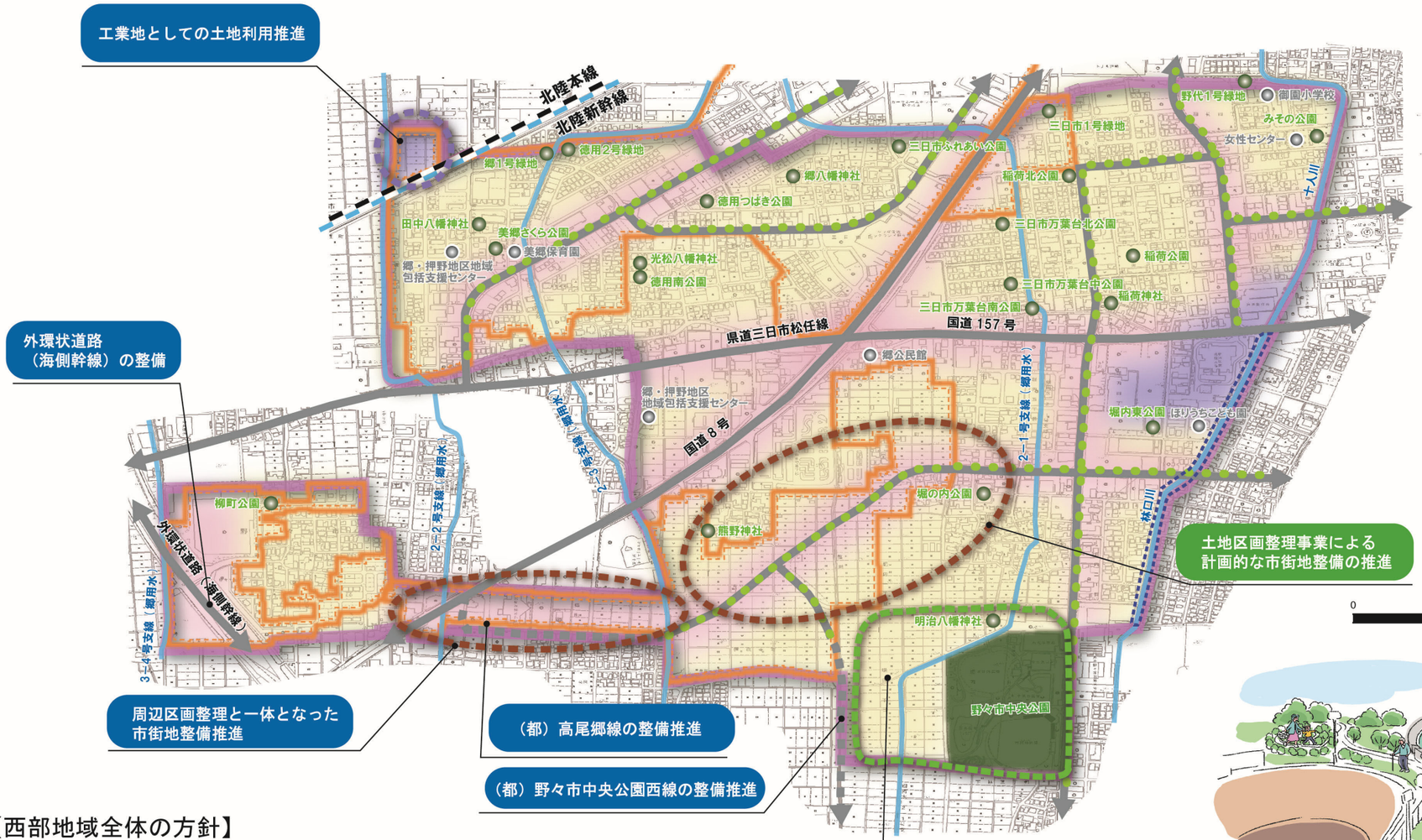
地域別将来整備方針図

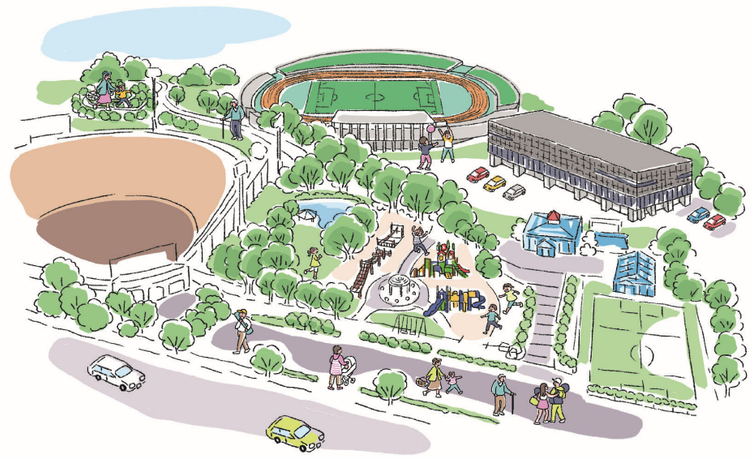
西部地域

野々市中央公園を核とした健やかで快適に暮らせる地域づくり

- 野々市中央公園における健康・交流・防災拠点の形成
- 野々市中央公園周辺における快適で安全な居住環境の確保
- 快適で暮らしやすい生活環境の確保







【西部地域全体の方針】

○ 地区計画による良好な市街地形成
⇒本地域では、地区計画の指定箇所が多く、今後とも地区計画による良好な市街地の形成を図る

○ 商業業務地区における沿道商業地の形成
⇒周辺の住環境に配慮した沿道商業地の形成と沿道の賑わい創出を図る

３－４　南部地域

（１）　まちづくりの課題

：アンケート調査より地域住民の声を反映した課題を示しています。

①　市街化の進展への対応

- 市役所周辺地区において、本市の中心都市拠点にふさわしい計画的な施設の立地を誘導していく必要があります。
- （都）本町新庄線（中央通り）沿道における計画的な土地利用の誘導を継続していく必要があります。
- 土地区画整理事業の実施による市街化が進展している地区であり、地区の特性に応じながら、都市基盤の整備をはじめ、子育てや教育環境の充実など、快適に暮らせる市街地の整備を計画的に推進していく必要があります。
- 人口動態などを鑑みながら、必要に応じ市街化区域隣接地区などにおける計画的な市街地整備を検討していく必要があります。

②　田園環境、歴史資源の保全・活用

- 多くの市民の憩いの場となっているあらみや公園や南部公園の機能を維持していく必要があります。
- 末松廃寺跡については、北陸最古の寺院として貴重な史跡であり、後世に継承するとともに、身近に歴史が感じられる公園として活用していく必要があります。
- 本市の農業振興及び環境保全の観点で、市街化調整区域に見られる農地の保全を図る必要があります。
- 地域活力を持続するため集落環境を維持・向上していく必要があります。
- 農業環境を活かした産学官連携による産業を展開していく必要があります。

③　快適に安心して暮らせる生活環境の確保

- 南北方向の道路網を構築するため、（都）野々市中央公園西線、三納下林線、堀内上林線を整備していく必要があります。
- より暮らしやすい地域づくりのため、公共交通の利便性を向上していく必要があります。

（２）地域の将来像

■地域特性

・市役所周辺及び（都）本町新庄線（中央通り）沿道において新たな中心的市街地が発展
・地域内の市街化区域では継続的に人口が増加
・市街化調整区域では緑豊かな田園が広がる一方、人口が減少傾向にあり、農業の衰退が懸念
・石川県立大学との近接性を活かした新たな市街地が整備中
・末松廃寺跡公園、石川県立大学など、歴史と学術の拠点となる施設が立地

■地域づくりの方向性

・本市の中心都市拠点にふさわしい地域づくりの推進
・田園環境の保全・活用
・土地区画整理事業と一体的な都市基盤の整備推進
・石川県立大学、末松廃寺跡公園の立地を活かした地域の魅力創出
・多様な暮らし方のできる地域づくりの推進

【まちづくりのテーマ】

市役所周辺のにぎわいと田園環境を活かした地域づくり

●にぎわいのある都市と緑豊かな田園が調和しながら、住まう場、働く場、楽しむ場及び学ぶ場として機能し、本市の新たな拠点として活力・魅力ある地域づくりを目指すものとします。

【まちづくりの基本目標】

- 基本目標１　市役所周辺における都市拠点の形成
- 基本目標２　田園環境・自然環境及び歴史資源の保全・活用
- 基本目標３　大学と連携した地域づくりの推進
- 基本目標４　快適で暮らしやすい生活環境の確保

全体構想部門	土地利用	市街地整備	交通体系	公園・緑地	河川・上下水道	良好な都市環境形成	都市景観形成	安全・安心	情報技術
基本目標1	○	－	－	－	－	○	－	－	○
基本目標2	○	○	－	○	－	○	○	－	－
基本目標3	○	－	－	－	－	－	○	－	－
基本目標4	○	○	○	－	－	－	－	－	○

※基本目標が関連する全体構想における主な部門を○印で示しています。

（３）まちづくりの基本方針

基本目標１：市役所周辺における都市拠点の形成

- 中心都市拠点として位置づけられる市役所周辺においては、行政施設をはじめ介護・福祉施設、子育て施設の集約的配置を図るとともに、（都）本町新庄線（中央通り）沿道における適正な土地利用の誘導によるにぎわいと魅力ある拠点形成を図ります。
- 多くの人が居住する地域として持続的なコミュニティを形成するため、集積する公共施設を活用しながら、多様な世代が交流できる機会の提供を図ります。
- 若い世代の居住を促進するため、都市拠点などにおける雇用の場の創出を図ります。

基本目標２：田園環境・自然環境及び歴史資源の保全・活用

- 地域住民をはじめ市民の憩いの場となっているあらみや公園や南部公園の機能維持を図ります。
- 中林地区におけるメモリアルパークののいち（市営墓地）については、園内の豊かな緑空間を活かし、広く市民や地域住民の憩いの場として活用を図ります。
- 末松廃寺跡公園について、地域の貴重な歴史的資源として再整備を図ります。
- 地域西南部に広がる農地の保全を図ります。
- 農業の振興を図るとともに、田園環境に立地する既存集落においては、地域コミュニティの維持や集落環境の活用を図ります。

【田園・自然環境及び歴史資源の保全・活用】

▲末松廃寺跡公園の再整備

▲農地の保全と活用

基本目標３：大学と連携した地域づくりの推進

- 石川県立大学周辺における学術拠点の形成を図るとともに、大学と連携しながら多様な世代が学び、交流できる機会の提供を図ります。
- 農業環境を地域の個性として捉え、石川県立大学が有する高度な技術を活かし連携しながら、６次産業などの振興による地域活性化を目指します。

【石川県立大学と連携した地域づくりの推進】

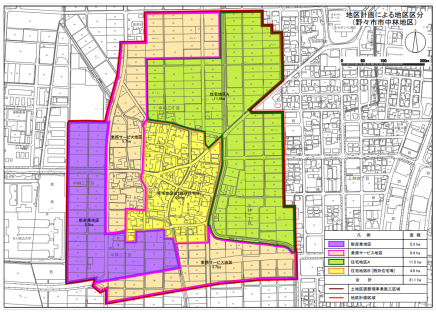
▲石川県立大学との連携

▲６次産業化の事例
（研究機関や企業などが共同で研究・開発した地元農産物を活用した食品の販売）

基本目標４：快適で暮らしやすい生活環境の確保

- 体系的な道路網構築のため、（都）野々市中央公園西線、三納下林線、堀内上林線における未整備区間の整備を推進します。
- 中林地区においては、土地区画整理事業による計画的な市街地整備を推進します。
- コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんキー」、北鉄バス、北鉄石川線との連携やパークアンドライドの推進による公共交通網の充実を進め、公共交通を利用した快適に暮らせる地域づくりを目指します。
- 周辺の住環境に配慮しながら、（都）本町新庄線（中央通り）沿道における適正な商業業務系土地利用の誘導により、生活利便性の向上を図ります。

【暮らしやすい生活環境の確保】



▲中林地区計画図

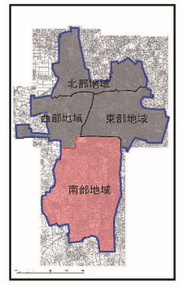
▲コミュニティバス「のっティ」

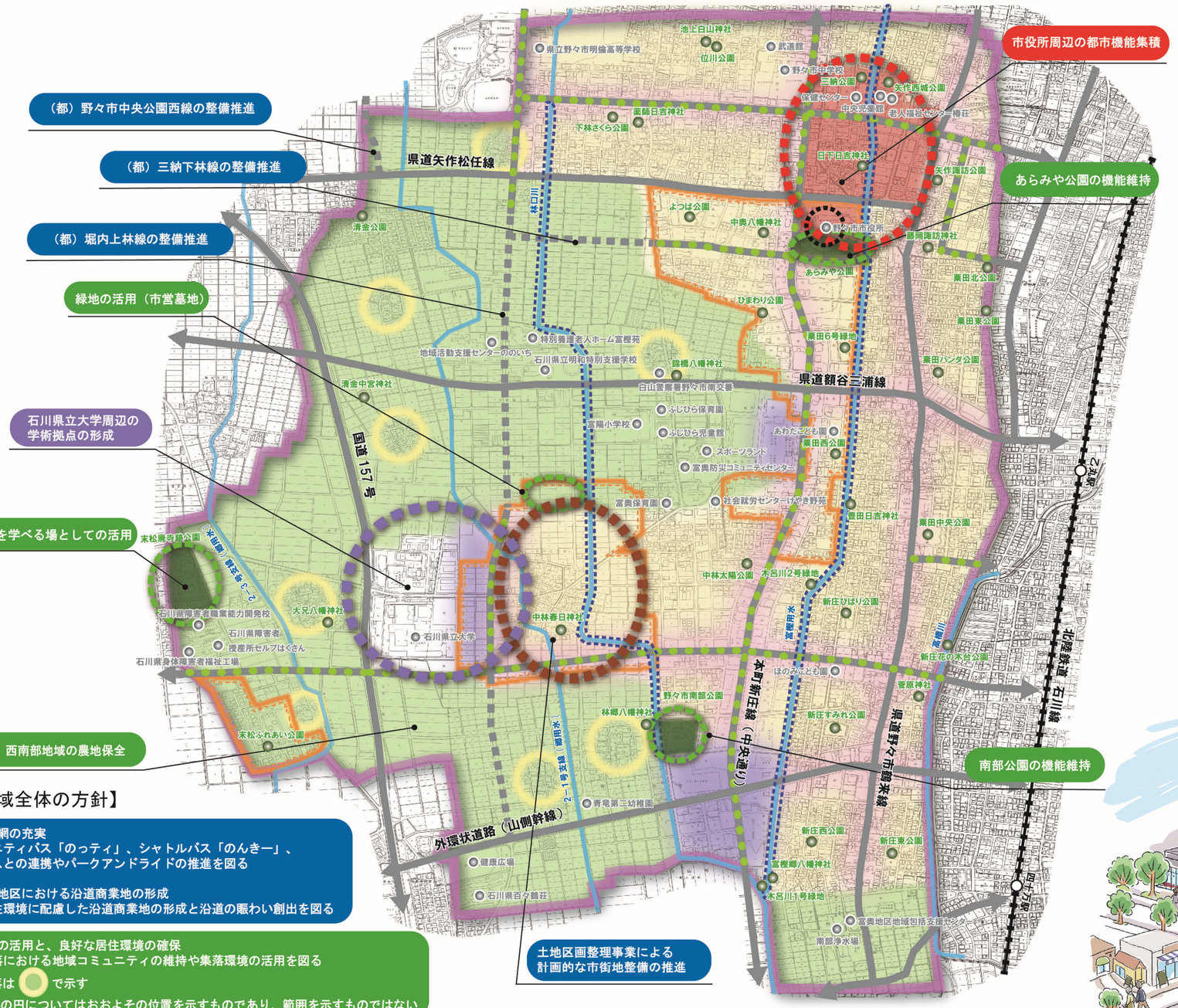
地域別将来整備方針図

南部地域

市役所周辺のにぎわいと田園環境を活かした地域づくり

- 市役所周辺における都市拠点の形成
- 田園環境・自然環境及び歴史資源の保全・活用
- 大学と連携した地域づくりの推進
- 快適で暮らしやすい生活環境の確保





凡　例

- 都市機能集積地区
- 住宅地区
- 商業業務地区
- 工業業務地区
- 農業振興地区
- 主な公園・緑地
- その他の公園・緑地など
- 主要施設
- 緑のある主な道路
- 河川沿いの遊歩道
- 地区計画区域
- 交通結節点
- 幹線道路

N

0　200　400　600　800　1000m

【南部地域全体の方針】

○ 公共交通網の充実
⇒コミュニティバス「のっティ」、シャトルバス「のんきー」、北鉄バスとの連携やパークアンドライドの推進を図る

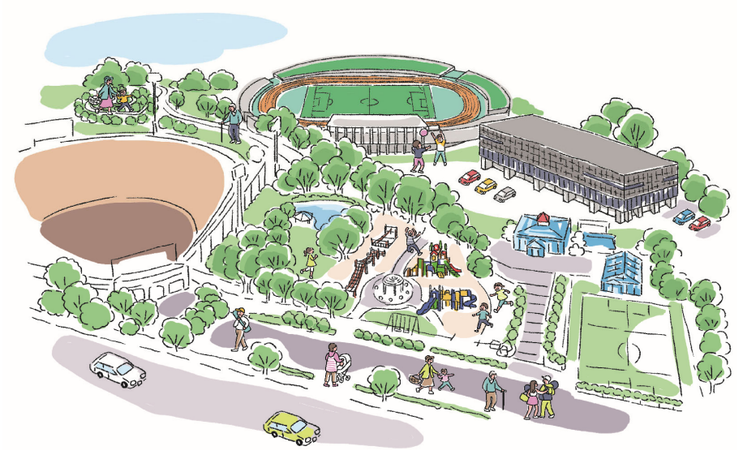
○ 商業業務地区における沿道商業地の形成
⇒周辺の住環境に配慮した沿道商業地の形成と沿道の賑わい創出を図る

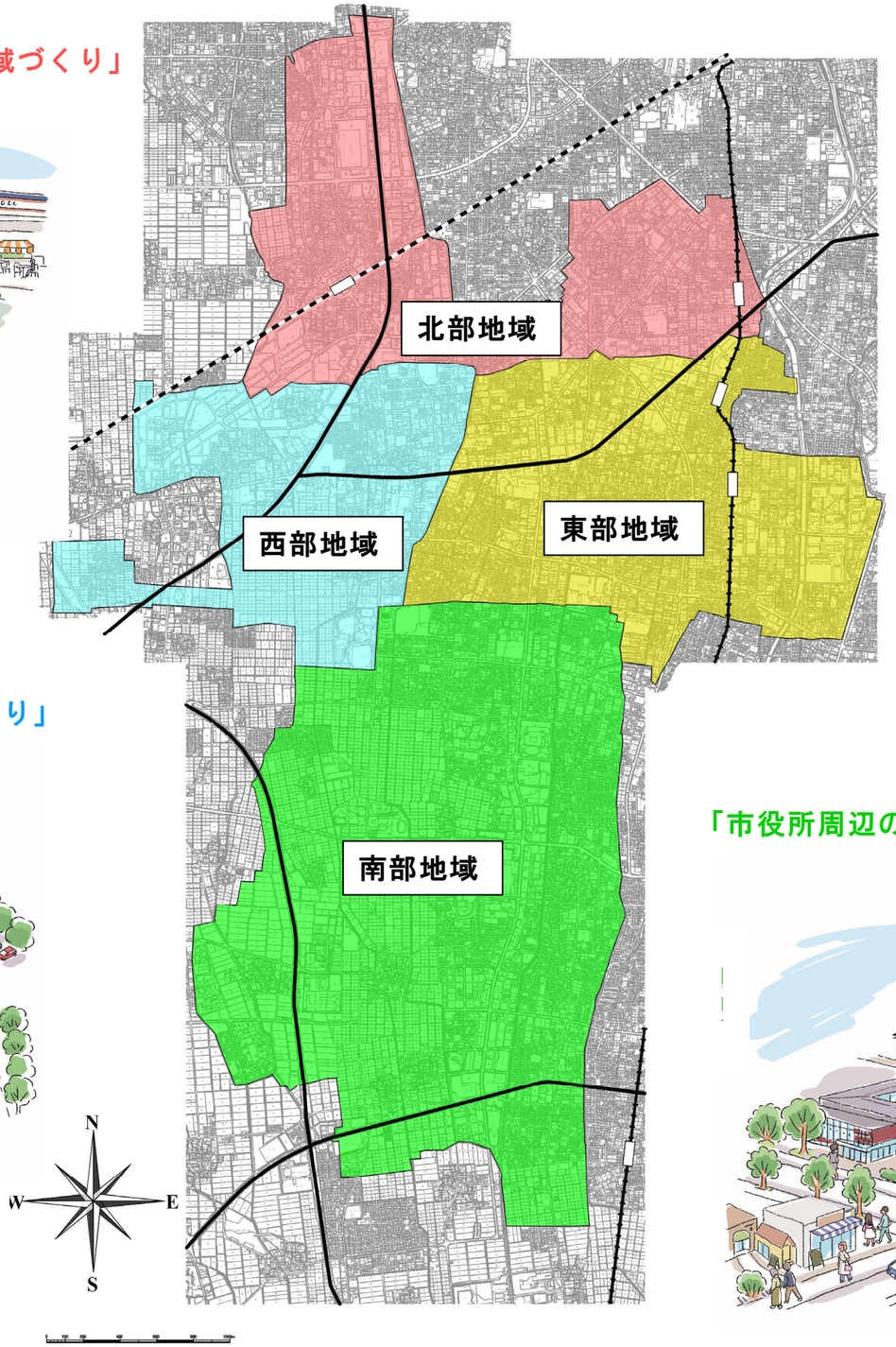
○ 集落環境の活用と、良好な居住環境の確保
⇒既存集落における地域コミュニティの維持や集落環境の活用を図る
※既存集落は　で示す
※既存集落の円についてはおおよその位置を示すものであり、範囲を示すものではない

４．地域別の将来イメージ

北部地域
「JR 野々市駅を中心としたにぎわいのある地域づくり」

西部地域
「野々市中央公園を核とした健やかで快適に暮らせる地域づくり」





東部地域
「歴史・文化と交流の場を活かした魅力ある地域づくり」

南部地域
「市役所周辺のにぎわいと田園環境を活かした地域づくり」